2027年３月期　第２四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）

2026年11月13日

上場会社名　　株式会社フーバーブレイン　　上場取引所　東
コード番号　　3927　　ＵＲＬ　https://www.fuva-brain.co.jp/
代表者　　（役職名）代表取締役社長　　（氏名）輿水　英行
問合せ先責任者　（役職名）管理部部長　　（氏名）齋藤　誠志郎　　ＴＥＬ　03-5210-3061
半期報告書提出予定日　　2026年11月13日　　配当支払開始予定日　2026年12月11日
決算補足説明資料作成の有無：有
決算説明会開催の有無　　：有　（機関投資家・アナリスト向け）

（百万円未満切捨て）

１．2027年３月期第２四半期（中間期）の連結業績（2026年４月１日～2026年９月30日）

（１）連結経営成績（累計）　　（%表示は、対前年中間期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2027年３月期中間期	3,483	29.4	123	2.2	130	3.9	128	△55.4
2026年３月期中間期	2,691	43.2	120	241.1	125	923.9	288	-

（注）１．包括利益　2027年３月期中間期　33百万円（△96.8%）　2026年３月期中間期　1,034百万円（-%）

	調整後売上高		調整後営業利益		調整後経常利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2027年３月期中間期	3,663	17.9	430	△22.9	437	△22.3
2026年３月期中間期	3,107	65.4	558	548.4	563	793.8

（注）１．調整後売上高、調整後営業利益及び調整後経常利益は、当社グループの主要事業及び成長戦略（オーガニックグロース、M&Aグロース及び投資グロース）を前提とし、当社グループの事業実態に則した経営成績を表す指標としてのより適切となる調整を行っております。
２．調整後売上高は、すべての主要事業の営業収入を含むように調整した包括的な売上高。投資グロース戦略のもと、投資子会社フーバー・インベストメントのすべての有価証券売却収入を、営業投資有価証券売上高として、売上高に含めております。
３．調整後営業利益は、経常的な営業キャッシュ・フローの創出能力を表すように調整した利益。M&Aグロース戦略のもと、調整後売上高に基づく営業利益に、M&Aにより生じた無形資産の償却費用及び取引費用、株式報酬費用、その他一時的費用等を加えて算出しており、当社グループが最も重視するKPIとなります。
４．調整後経常利益は、調整後営業利益に基づく経常利益であり、更なる調整は加えておりません。

	１株当たり中間純利益	潜在株式調整後１株当たり中間純利益
	円 銭	円 銭
2027年３月期中間期	24.03	22.46
2026年３月期中間期	53.97	53.27

（２）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2027年３月期中間期	9,193	2,409	22.4
2026年３月期	7,872	2,317	27.0

（参考）自己資本　2027年３月期中間期　2,055百万円　2026年３月期　2,126百万円

２．配当の状況

	年間配当金				
	第１四半期末	第２四半期末	第３四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2026年３月期	-	0.00	-	15.00	15.00
2027年３月期	-	8.00			
2027年３月期（予想）			-	8.00	16.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

３．2027年３月期の連結業績予想（2026年４月１日～2027年３月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		１株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	7,915	40.3	449	120.4	420	104.2	330	7.0	58.00

	調整後売上高		調整後営業利益		調整後経常利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
通期	8,277	36.6	977	32.9	948	28.6

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※　注記事項

（１）当中間期における連結範囲の重要な変更：有

新規　1社　（社名）　フィールドテック株式会社

（注）詳細は、添付資料Ｐ．10「２．中間連結財務諸表及び主な注記（４）中間連結財務諸表に関する注記事項（連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更の注記）」をご覧ください。

（２）中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更　：無
② ①以外の会計方針の変更　：無
③ 会計上の見積りの変更　：無
④ 修正再表示　：無

（４）発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2027年３月期中間期	5,604,200株	2026年３月期	5,604,200株
② 期末自己株式数	2027年３月期中間期	240,314株	2026年３月期	259,807株
③ 期中平均株式数（中間期）	2027年３月期中間期	5,358,027株	2026年３月期中間期	5,344,393株

※　第２四半期（中間期）決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※　業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

（第２四半期決算説明会について）

当社2027年３月期第２四半期決算説明会について、機関投資家・アナリスト向けに2026年11月18日16時00分からオンラインにて開催いたします。説明会参加ご希望の方は、所属機関名・所属部署名・役職・お名前を記載のうえ、下記メールアドレスまでご連絡ください。

株式会社フーバーブレインIR担当：ir@fuva-brain.co.jp

○添付資料の目次

１．当中間決算に関する定性的情報 …… 2
（１）経営成績に関する説明 …… 2
（２）財政状態に関する説明 …… 3
（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 …… 3
２．中間連結財務諸表及び主な注記 …… 4
（１）中間連結貸借対照表 …… 4
（２）中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書 …… 6
中間連結損益計算書 …… 6
中間連結包括利益計算書 …… 7
（３）中間連結キャッシュ・フロー計算書 …… 8
（４）中間連結財務諸表に関する注記事項 …… 10
（継続企業の前提に関する注記） …… 10
（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記） …… 10
（連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更の注記） …… 10
（セグメント情報等の注記） …… 11
（重要な後発事象の注記） …… 14

１．当中間決算に関する定性的情報

（１）経営成績に関する説明

当社グループ（当社及び連結子会社）は、中期経営計画を策定し、今後実現すべきビジョンを「日本発のAIガーディアンを目指す」として、2030年３月期における業績目標を調整後売上高150億円、調整後営業利益15億円としました。当該計画においては、株主還元計画も明確にし、2030年３月期において配当性向30%以上を目指してまいります。

当該計画の着実な実現に向け、今後もオーガニックグロースと積極的なM&A・戦略提携によるM&Aグロース、さらに投資グロースを成長ファクターにグループ拡大を目指してまいります。



会計期間	FY25実績	FY26	FY27	FY28	FY29	FY30
調整後売上高（百万円）	4,373	6,000	7,700	9,900	12,300	15,000
調整後営業利益（百万円）	290	700	830	930	1,200	1,500

当中間連結会計期間においては、ITツール事業における成長事業である「セキュリティ＆ネットワークaaS製品」が、前年同期比40%増と継続成長しております。また、基盤事業である「セキュリティ製品」は高い利益貢献を継続しつつ前年同期比約37%増と好調なオーガニックグロースを実現しております。

ITサービス事業においては、2026年２月20日付で子会社化した、人材紹介及びRPO領域において戦略設計から実行までを一貫して担う高度な実務ノウハウを有する株式会社Youth Planet、2026年３月25日付で子会社化した高度なAI技術の研究・実装・事業展開において卓越した実績を持つ株式会社ProofX（以下、「ProofX」という。）、2026年５月26日付で子会社化した、30年にわたり要求水準が厳しい大手通信キャリアの施工を担い、高度な技術力と工程・品質・安全・上流/下流を統括するプロジェクト管理能力を有するフィールドテック株式会社が新たに業績貢献しております。

2026年４月１日にProofX代表取締役CEOであり、世界トップクラスのAI研究者ネットワークに参画する日本屈指の若手AI起業家である夏目亮太氏を、当社のChief AI Officer（CAIO）に迎えました。当社が目指す「日本発のAIガーディアン」の実現に向け、当社製品のAIエージェント化に取り組んでおります。2026年11月2日より、当社の「働き方改革製品（SaaS型）」が取得するログデータを用いたAX・業務改革コンサルティングサービス「Work Smart AX」をProofXと共に提供を開始いたしました。

投資事業については、投資子会社フーバー・インベストメント株式会社において、投資先であるデジタルグリッド株式会社の株式売却を計画的に実行しており、当中間連結会計期間において投資有価証券売却益169,692千円を特別利益として計上しております。

以上の取り組みの結果、当中間連結会計期間の売上高は3,483,467千円（前年同期比29.4%増）となりました。売上高の拡大に伴い粗利額が拡大したものの、コーポレート機能強化及び積極的なエンジニア人材採用に伴う費用増加により、営業利益は123,289千円（前年同期比2.2%増）となりました。経常利益については、助成金収入9,200千円を計上する一方、支払利息9,588千円を計上したことで、130,069千円（前年同期比3.9%増）となりました。親会社株主に帰属する中間純利益は、特別利益として投資有価証券売却益169,692千円を計上し、法人税等合計127,623千円、非支配株主に帰属する中間純利益43,363千円により、親会社株主に帰属する中間純利益128,782千円（前年同期比55.4%減）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

（ITツール事業）
当中間連結会計期間の売上高は2,015,550千円（前年同期比37.6%増）、セグメント利益は198,845千円（前年同期比45.4%増）となりました。
（ITサービス事業）
当中間連結会計期間の売上高は1,467,916千円（前年同期比19.7%増）、セグメント利益は156,384千円（前年同期比6.2%増）となりました。
（投資事業）
当中間連結会計期間の売上高は-千円（セグメント間の内部売上高又は振替高7,800千円）、セグメント損失は8,555千円（前年同期はセグメント利益449千円）となりました。

（２）財政状態に関する説明
①資産、負債及び純資産の状況
当中間連結会計期間末における財政状態は、次のとおりであります。
（資産）
当中間連結会計期間末における資産合計の額は、前連結会計年度末に比べ1,321,227千円増加し、9,193,694千円となりました。これは主に、前払費用が651,476千円及び長期前払費用が726,757千円それぞれ増加したことによるものであります。
（負債）
当中間連結会計期間末における負債合計の額は、前連結会計年度末に比べ1,229,285千円増加し、6,784,585千円となりました。これは主に、前受金が654,023千円及び長期前受金が690,367千円増加したことによるものであります。
（純資産）
当中間連結会計期間末における純資産合計の額は、前連結会計年度末に比べ91,942千円増加し、2,409,109千円となりました。これは主に、親会社株主に帰属する中間純利益128,782千円を計上し、フィールドテック株式会社の子会社化等により非支配株主持分が127,937千円増加した一方、その他有価証券評価差額金が137,325千円減少し、配当金支払により利益剰余金が80,165千円減少したことによるものであります。

②キャッシュ・フローの状況
当中間連結会計期間の現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）の期末残高は、前連結会計年度末に比べ6,009千円増加し、1,916,994千円となりました。

当中間連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの主な要因は次のとおりであります。
（営業活動によるキャッシュ・フロー）
営業活動による資金は、19,862千円の獲得（前年同期は6,128千円の支出）となりました。主な要因は、税金等調整前中間純利益299,769千円を計上し、前受金が1,344,390千円増加した一方、投資有価証券売却益169,692千円を計上し、前払費用の1,377,229千円の増加によるものであります。
（投資活動によるキャッシュ・フロー）
投資活動による資金は、92,581千円の獲得（前年同期は256,037千円の獲得）となりました。主な要因は、投資有価証券の売却による収入180,317千円によるものであります。
（財務活動によるキャッシュ・フロー）
財務活動による資金は、106,434千円の支出（前年同期は83,660千円の支出）となりました。主な要因は、短期借入金の100,286千円純減によるものであります。

（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明
連結業績予想については、2026年５月15日付公表「2026年３月期　決算短信〔日本基準〕（連結）」で公表いたしました通期の連結業績予想に変更はありません

２．中間連結財務諸表及び主な注記

（１）中間連結貸借対照表

（単位：千円）

	前連結会計年度 （2026年３月31日）	当中間連結会計期間 （2026年９月30日）
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,910,985	1,873,776
受取手形及び売掛金	529,169	527,281
営業投資有価証券	192,917	192,917
商品	860	804
仕掛品	－	19,442
原材料及び貯蔵品	60,929	79,155
前払費用	1,455,192	2,106,669
その他	10,498	67,393
貸倒引当金	△451	△791
流動資産合計	4,160,101	4,866,649
固定資産		
有形固定資産	151,622	152,479
無形固定資産		
のれん	867,481	912,928
その他	2,041	1,573
無形固定資産合計	869,522	914,502
投資その他の資産		
投資有価証券	1,063,179	839,909
長期前払費用	1,388,088	2,114,846
その他	239,951	305,307
投資その他の資産合計	2,691,220	3,260,063
固定資産合計	3,712,365	4,327,045
資産合計	7,872,466	9,193,694

（単位：千円）

	前連結会計年度 （2026年３月31日）	当中間連結会計期間 （2026年９月30日）
負債の部		
流動負債		
買掛金	187,316	237,652
短期借入金	600,286	500,000
１年内返済予定の長期借入金	100,368	128,784
前受金	1,649,916	2,303,939
未払法人税等	232,593	138,191
引当金	49,127	42,138
その他	270,469	279,077
流動負債合計	3,090,077	3,629,784
固定負債		
長期借入金	226,358	285,460
繰延税金負債	329,118	263,181
退職給付に係る負債	34,007	37,369
資産除去債務	43,770	46,454
長期前受金	1,806,062	2,496,429
その他	25,905	25,905
固定負債合計	2,465,223	3,154,800
負債合計	5,555,300	6,784,585
純資産の部		
株主資本		
資本金	796,881	796,881
資本剰余金	318,299	331,238
利益剰余金	457,211	505,827
自己株式	△72,281	△66,858
株主資本合計	1,500,110	1,567,089
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	625,463	488,138
繰延ヘッジ損益	1,349	△37
その他の包括利益累計額合計	626,813	488,100
新株予約権	26,352	62,092
非支配株主持分	163,889	291,826
純資産合計	2,317,166	2,409,109
負債純資産合計	7,872,466	9,193,694

（２）中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書

（中間連結損益計算書）

（単位：千円）

	前中間連結会計期間 （自　2025年４月１日 至　2025年９月30日）	当中間連結会計期間 （自　2026年４月１日 至　2026年９月30日）
売上高	2,691,425	3,483,467
売上原価	1,929,883	2,500,778
売上総利益	761,541	982,689
販売費及び一般管理費	640,882	859,399
営業利益	120,658	123,289
営業外収益		
受取利息及び配当金	2,206	2,516
助成金収入	9,000	9,200
消費税等差額	－	3,981
その他	427	680
営業外収益合計	11,634	16,377
営業外費用		
支払利息	3,470	9,588
為替差損	730	－
持分法による投資損失	2,814	－
その他	79	8
営業外費用合計	7,096	9,597
経常利益	125,196	130,069
特別利益		
段階取得に係る差益	2,730	－
投資有価証券売却益	385,840	169,692
新株予約権戻入益	138	7
特別利益合計	388,708	169,699
税金等調整前中間純利益	513,904	299,769
法人税、住民税及び事業税	193,035	122,607
法人税等調整額	10,746	5,016
法人税等合計	203,782	127,623
中間純利益	310,122	172,145
非支配株主に帰属する中間純利益	21,656	43,363
親会社株主に帰属する中間純利益	288,466	128,782

（中間連結包括利益計算書）

（単位：千円）

	前中間連結会計期間 （自　2025年４月１日 至　2025年９月30日）	当中間連結会計期間 （自　2026年４月１日 至　2026年９月30日）
中間純利益	310,122	172,145
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	723,376	△137,325
繰延ヘッジ損益	1,191	△1,386
その他の包括利益合計	724,568	△138,712
中間包括利益	1,034,691	33,433
（内訳）		
親会社株主に係る中間包括利益	1,013,029	△9,930
非支配株主に係る中間包括利益	21,662	43,363

（３）中間連結キャッシュ・フロー計算書

（単位：千円）

	前中間連結会計期間 （自　2025年４月１日 至　2025年９月30日）	当中間連結会計期間 （自　2026年４月１日 至　2026年９月30日）
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純利益	513,904	299,769
減価償却費	12,913	10,911
のれん償却額	30,815	54,837
段階取得に係る差損益（△は益）	△2,730	－
貸倒引当金の増減額（△は減少）	△0	340
賞与引当金の増減額（△は減少）	△8,204	△3,863
役員賞与引当金の増減額（△は減少）	△5,560	△5,624
受取利息及び受取配当金	△2,206	△2,516
助成金収入	△9,000	△9,200
新株予約権戻入益	△138	△7
持分法による投資損益（△は益）	2,814	－
支払利息	3,470	9,588
投資有価証券売却損益（△は益）	△385,840	△169,692
売上債権の増減額（△は増加）	9,823	27,952
棚卸資産の増減額（△は増加）	41,669	△15,259
前払費用の増減額（△は増加）	△268,571	△1,377,229
仕入債務の増減額（△は減少）	△47,626	32,247
未払金の増減額（△は減少）	12,609	6,983
前受金の増減額（△は減少）	140,668	1,344,390
未払消費税等の増減額（△は減少）	6,224	△1,141
退職給付に係る負債の増減額（△は減少）	2,451	3,361
その他	9,483	26,896
小計	56,971	232,744
利息の受取額	2,205	2,514
利息の支払額	△3,470	△9,588
法人税等の支払額	△70,835	△215,007
助成金の受取額	9,000	9,200
営業活動によるキャッシュ・フロー	△6,128	19,862

（単位：千円）

	前中間連結会計期間 （自　2025年４月１日 至　2025年９月30日）	当中間連結会計期間 （自　2026年４月１日 至　2026年９月30日）
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	－	△914
貸付金の回収による収入	312	467
有形固定資産の取得による支出	△107,279	△9,177
資産除去債務の履行による支出	△1,574	－
投資有価証券の売却による収入	415,840	180,317
敷金及び保証金の差入による支出	△2,342	△4,421
敷金及び保証金の回収による収入	7,656	－
保険積立金の積立による支出	△728	△728
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△5,847	△72,961
その他	△50,000	－
投資活動によるキャッシュ・フロー	256,037	92,581
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（△は減少）	300,000	△100,286
長期借入れによる収入	－	200,000
長期借入金の返済による支出	△43,998	△112,482
新株予約権の発行による収入	14,963	－
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出	△354,625	－
配当金の支払額	－	△80,165
非支配株主への配当金の支払額	－	△13,500
財務活動によるキャッシュ・フロー	△83,660	△106,434
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	166,248	6,009
現金及び現金同等物の期首残高	1,522,935	1,910,985
現金及び現金同等物の中間期末残高	1,689,184	1,916,994

（４）中間連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更の注記）

連結の範囲の重要な変更

当中間連結会計期間において、フィールドテック株式会社の株式を取得したことによる子会社化により、同社を連結の範囲に含めております。

（セグメント情報等の注記）

【セグメント情報】

Ⅰ　前中間連結会計期間（自　2025年４月１日　至　2025年９月30日）

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント				合計	調整額（注１）	中間連結損益計算書計上額（注２）
	ITツール事業	ITサービス事業	投資事業	計			
売上高							
外部顧客への売上高	1,465,036	1,226,389	－	2,691,425	2,691,425	－	2,691,425
セグメント間の内部売上高又は振替高	60	15,804	1,800	17,664	17,664	△17,664	－
計	1,465,097	1,242,193	1,800	2,709,090	2,709,090	△17,664	2,691,425
セグメント利益	136,731	147,195	449	284,376	284,376	△163,717	120,658

（注）１．セグメント利益の調整額△163,717千円には、のれんの償却額△8,525千円、一時的に発生する子会社取得関連費用△15,320千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△139,871千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

２．セグメント利益は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

２．報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

（固定資産に係る重要な減損損失）

該当事項はありません。

（のれんの金額の重要な変動）

前中間連結会計期間において、株式会社フーバー・クロステクノロジーズを連結の範囲に含めたことに伴い、ＩＴツール事業の資産として、のれんが10,509千円増加しております。なお、前中間連結会計期間末においては、取得原価の配分が完了していないため、のれんの金額は暫定的に算定された金額であります。

Ⅱ　当中間連結会計期間（自　2026年４月１日　至　2026年９月30日）

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント				合計	調整額（注１）	中間連結損益計算書計上額（注２）
	ITツール事業	ITサービス事業	投資事業	計			
売上高							
外部顧客への売上高	2,015,550	1,467,916	－	3,483,467	3,483,467	－	3,483,467
セグメント間の内部売上高又は振替高	54	30,725	7,800	38,579	38,579	△38,579	－
計	2,015,604	1,498,641	7,800	3,522,046	3,522,046	△38,579	3,483,467
セグメント利益又は損失（△）	198,845	156,384	△8,555	346,673	346,673	△223,384	123,289

（注）１．セグメント利益又は損失（△）の調整額△223,384千円には、のれんの償却額△8,525千円、一時的に発生する子会社取得関連費用△27,280千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△187,578千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

２．セグメント利益又は損失（△）は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

２．報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

（固定資産に係る重要な減損損失）

該当事項はありません。

（のれんの金額の重要な変動）

当中間連結会計期間において、フィールドテック株式会社を連結の範囲に含めたことに伴い、ITサービス事業の資産として、のれんが97,151千円増加しております。なお、当中間連結会計期間末においては、取得原価の配分が完了していないため、暫定的に算定された金額であります。

【調整後のセグメント情報】

前中間連結会計期間（自　2025年４月１日　至　2025年９月30日）

調整後の報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント				合計	調整額	調整後中間連結売上高及び営業利益
	ITツール事業	ITサービス事業	投資事業	計			
調整後売上高							
外部顧客への売上高	1,465,036	1,226,389	415,840	3,107,265	3,107,265	－	3,107,265
セグメント間の内部売上高又は振替高	60	15,804	1,800	17,664	17,664	△17,664	－
計	1,465,097	1,242,193	417,640	3,124,930	3,124,930	△17,664	3,107,265
調整後セグメント利益	136,731	171,298	386,289	694,319	694,319	△135,538	558,781

当中間連結会計期間（自　2026年４月１日　至　2026年９月30日）

調整後の報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント				合計	調整額	調整後中間連結売上高及び営業利益
	ITツール事業	ITサービス事業	投資事業	計			
調整後売上高							
外部顧客への売上高	2,015,550	1,467,916	180,317	3,663,785	3,663,785	－	3,663,785
セグメント間の内部売上高又は振替高	54	30,725	7,800	38,579	38,579	△38,579	－
計	2,015,604	1,498,641	188,117	3,702,364	3,702,364	△38,579	3,663,785
調整後セグメント利益	198,845	222,696	161,137	582,678	582,678	△151,832	430,846

（注）１．調整後売上高、調整後セグメント利益は、当社グループの主要事業及び成長戦略（オーガニックグロース、M&Aグロース及び投資グロース）を前提とし、当社グループの事業実態に則した経営成績を表す指標としてのより適切となる調整を行っております。

２．調整後売上高は、すべての主要事業の営業収入を含むように調整した包括的な売上高。投資グロース戦略のもと、投資子会社フーバー・インベストメントのすべての有価証券売却収入を、営業投資有価証券売上高として、売上高に含めております。

３．調整後セグメント（営業）利益は、経常的な営業キャッシュ・フローの創出能力を表すように調整した利益。M&Aグロース戦略のもと、調整後売上高に基づく営業利益に、M&Aにより生じた無形資産の償却費用及び取引費用、株式報酬費用、その他一時的費用等を加えて算出しており、当社グループが最も重視するKPIとなります。

（重要な後発事象の注記）

該当事項はありません。